



記号
創発

=
抽象化

間に
ある

意識と
の
無意識

キオクを
体験する

黒木 萬代
郡司 ペギオ 幸夫
笹井 一人
谷 伊織
中村 恭子

基盤研究Ⅲ 課題

「体験を志向する技術」成果報告

大阪大学中之島芸術センター企画展

2026 **2.28**^{Sat} ~ **3.8**^{Sun}

10:30-17:00 月・祝閉場 4階展示室

大阪大学中之島芸術センター



EXPERIENCING MEMORY

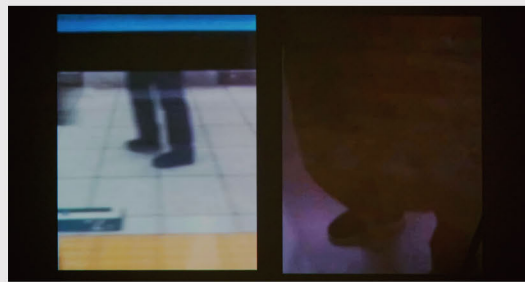
THE UNIVERSITY OF OSAKA NAKANOSHIMA ART CENTER



黒木萬代《記憶 2 green erewhon》7分30秒,セレナイト,受話器,2025年



黒木萬代
哲学者
(哲学・少女論)



郡司ベギオ幸夫《実体離脱体験》1分47秒, 2025年



郡司ベギオ幸夫
早稲田大学 教授
(生命基礎論)



笹井一人《サッカー場間歪み》1分51秒, 2025年



笹井一人
茨城大学 教授
(複雑系科学・エージェント工学)



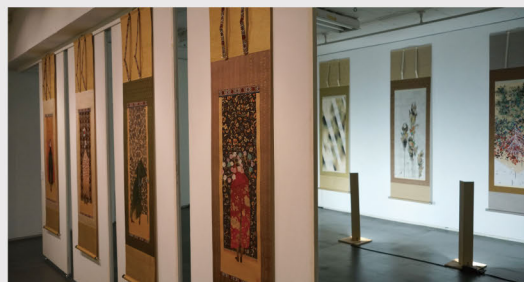
谷伊織《nails are not what they seem》2分49秒, 2025年



谷伊織
神戸大学 助教
(感性情報学・生物計算機)



中村恭子《その曲がり角の向こう》5分37秒, 2025年



中村恭子《書き割り少女》四幅対(手前), 2021-22年, 中村恭子《風景の肉体》三幅対(奥) 2023-24年



中村恭子
大阪大学 准教授
(日本画・芸術基礎論)



展覧会ウェブサイト

www.art.osaka-u.ac.jp/news/6563.html

「記憶」をテーマにした本研究は、郡司ベギオ幸夫が提唱する「天然知能」の創造モデルに現れる「トラウマ構造」に基づいています。

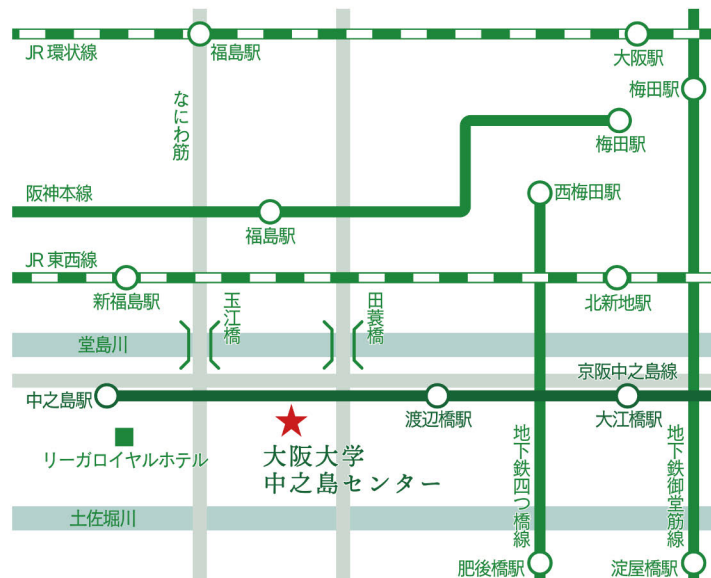
トラウマ構造とは、AでもありBでもあるという肯定的矛盾とAでもBでもない否定的矛盾が、同時に成立し、そのことでそれぞれの矛盾の強度を薄めるという構造です。

この構造で特に否定的矛盾をいかに構成できるかということが、創造性と強い関連を持つと考えています。

このトラウマ構造における否定系の構成を、「記憶」という観点で共同研究し、「プロトデジャヴ」(郡司による呼称)を発生させる装置を構築することを目指しています。

本展ではその研究成果の一端を、映像、インスタレーション、絵画によって示します。

〈概要〉



3.8^{sun} 14時半〜16時

【会場】3階スタジオ
【参加料】無料
申込不要

トークイベント
意識と無意識の間にある
〈抽象化II記号創発〉

【登壇者】
黒木萬代・郡司ベギオ幸夫・
笹井一人・谷伊織・中村恭子

言語的・意識的知覚と、想像的・無意識的知覚の間に、理念や記号の創発、抽象化が出現する。芸術の創造の種はそこにある。

これについて、本研究課題の成果を踏まえて異なる分野の研究者5名が議論し脱線する。

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53
大阪大学中之島センター4階展示室

2026年
【開場時間】2月28日(土)~3月8日(日)/10:30~17:00/月・祝閉場
【入場料】無料
【協力】たかとり工務店(会場施工)、アートスペースキムラ ASK?(東京会場※2024年11月開催)
【問合せ先】kyoko608@gmail.com(中村恭子)
【主催】大阪大学中之島芸術センター

大阪大学中之島芸術センター

